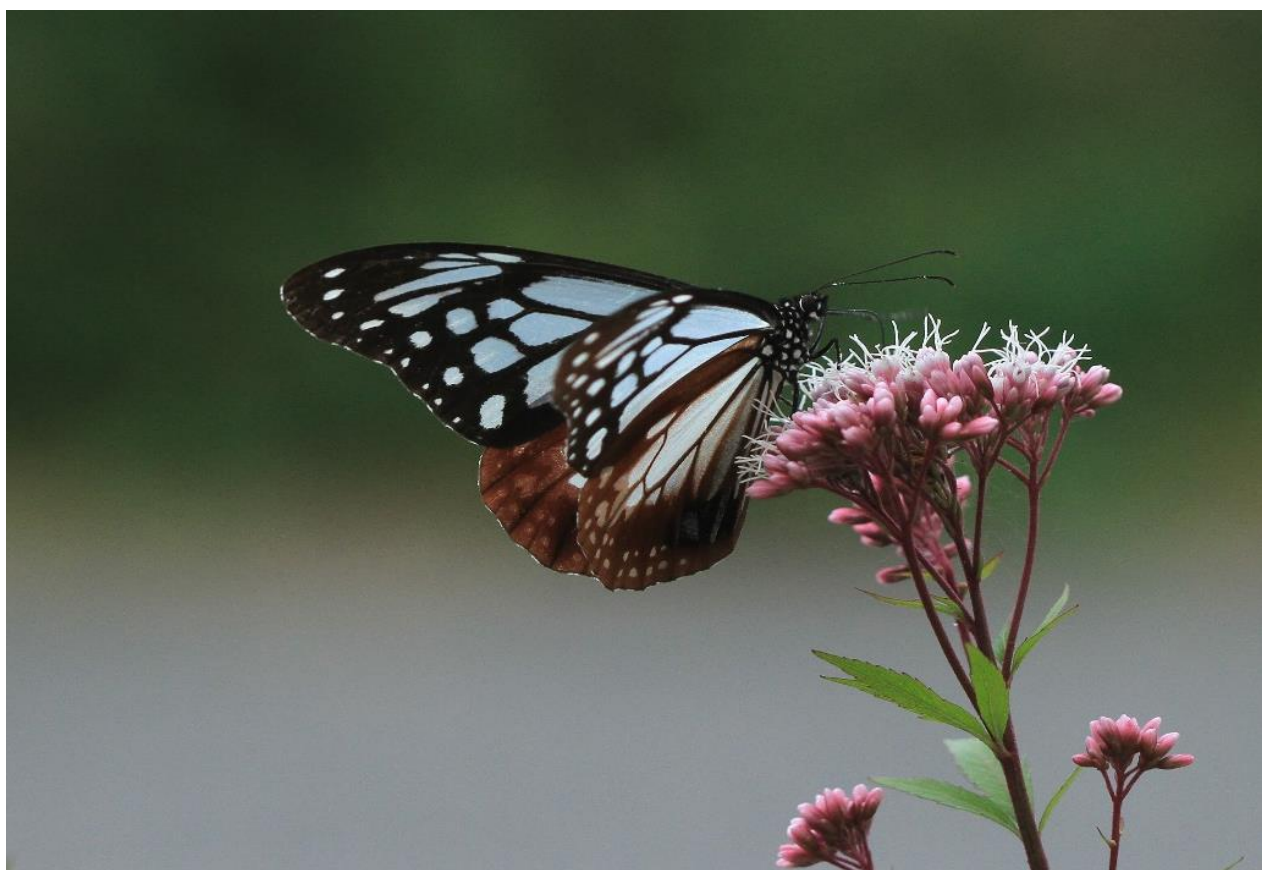


よしまい

2019年11月30日



フジバカマの蜜を吸うアサギマダラ

目次

・公園の風景

- アサギマダラの黒いヒミツ 1
- 淡水池でごゆっくり～ 1
- ソーコ に アート 1

・Sさん カエル池をつくる その② . . 2

・みんなのひろば

- 生り物の木 2

・活動紹介

- 国際シンポに一役
～クロツラヘラサギ大集合～ . . . 3
- 楽しかったよ！ふれあいまつり . . 3

発行：「葦の会」

編集：機関紙チーム

事務局：〒754-1277

山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030

FAX 0836-66-2031

～ ご一緒しませんか ～

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= アサギマダラの黒いヒミツ =

9月の終わり頃からしばらくの間ビジターセンターの入り口にフジバカマのプランターが置かれていました。何らかの理由で飛来が遅れていたアサギマダラが10月の台風後、何匹か姿を見せました。とにかくフジバカマの花が大好きらしいアサギマダラ。それはフジバカマなどヒヨドリバナ属の持っているピロリジジンアルカロイドという毒成分が、性成熟に必要なからだそうです。

また幼虫の時に食べるガガイモ科の植物にも毒成分のアルカロイドが含まれていて、これは体に取り込むことによって鳥などから身を守る役割を果たします。羽の美しいステンドグラスのような黒い隈取りは「毒をもっているよ!」と天敵に知らせる役目を持っているそうです。

海をも渡り2,000キロもの距離を移動するという驚くばかりの蝶ですが、何年か前わが家に植えた、たった一本のフジバカマにも一匹来てくれたことがあります。旅の途中いったいどうやって、ここにフジバカマがあると知ったのか本当に不思議です。信州あたりから飛んできて公園に立寄ったアサギマダラも、今頃は暖かい沖縄や台湾に無事に着いているのでしょうか。



= 淡水池でごゆっくり～ =



秋は野鳥たちの渡りの季節。公園は北から次々に飛来してきたさまざまな冬鳥たちを迎え、夏の間ひっそりとしていた淡水池も生氣を取り戻したようだ。と言っても今年は、夏の酷暑が原因と思われるが池の水草が少なく、そのせいか淡水池で採餌する鳥の数が例年より少ない。今いるのは、クイナ類のオオバンのほか、カモ類ではコガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、ハシ

ビロガモ、マガモ、キンクロハジロ・・・など。

淡水池に到着したばかりのカモたちは、どれも雄雌の区別のつかない地味な色をしていたが、秋の深まりと共にオスの体の模様は鮮やかな繁殖羽に変わり、マガモやハシビロガモなどは頭がきれいな緑色になっている。繁殖のため、春にはまた北へと帰っていくカモたち、しばらくの間この淡水池でごゆっくり。でも、ポーっと浮かんでないで猛禽類にはくれぐれも気を付けて!

= ソーコ に アート =

11月4日 振替休日の月曜日「クロツラヘラサギの倉庫に絵を描こう」のイベントが開かれ、子供たちと付添いの方など30名以上が集まりました。一見描くのが難しそうなクロツラですが、クロツラヘラサギネットワークの松本悟さんの指導により「まる描いてまる描いてヘラ描いて♪…」と意外に簡単。大人も子供もペンキだらけになりながら楽しそうでした。山口湾をイメージして青く塗られた倉庫の四面に水性ペンキで描いていき、約2時間後たくさんのクロツラヘラサギが舞う素敵な倉庫アートが完成しました。近い将来この絵のような風景がみられるようになるといいですね。



Sさん カエル池を造る . . . その②

池を造ろうと思い立ったのが一昨年の暮れ。草が枯れている冬のうちに、年が明けてから作業を始めました。掘ってみると田んぼの土は柔らかく、スコップがスーッと入っていきます。せっせと掘りすめ、3日かけて60cm x 260cm、深さ50cmの穴に。底にブルーシート2枚を敷き、水を入れてカエル池のでき上がりです。

サギの侵入を防ぐため、穴の縁を竹で囲み、すだれで覆えるようにしておきました。これで準備は万端。あとは春になって冬眠から覚めたカエルたちがやって来るのを待つばかりです。



(次号につづく)



カエル池の
完成形がこれ



半年後の写真です

みんなのひろば😊

生り物の木

公園内で毎年立派な実をつける何本ものヤマモモの木、今年は全く結実せず大いに落ち込んだ。初夏の頃の緑色の小さなまん丸の実から、完熟期の黒味があった赤色になるまでの、個体差のある実が枝をステージのように見せてくれるグラデーションの美しさは格別だ。野性味たっぷりの果実の味はジンのような風味を醸す。園内整備の作業時に枝から摘み取り（内緒）ほおばる美味しさは一級品だ。まだかまだかと実を求め、枝を見上げる過程で、今まで見逃していた花に気付かされた。くすんだ赤茶色の房咲きの様からは想像もつかない実。来年は花から実への変化を見届けたいものだ。

わが家の庭越しに隣家の柿の木を眺めることができる。甘柿で美味である。実が熟れる頃は多種の鳥たちで賑わい枝がワサワサ揺れるほどだが、今年は実りもまばらで鳥も寄ってきていない。

木に咲く花が好きで、実がなれば数倍愛おしく思うが、ただの食いしん坊なのかもしれない。山口へ移り住んで以来、多種の生り物の木で雑木林を造りたい夢を持つようになった。裏の年が巡って来てもそれもまたイイではないか。（T. M）



活動紹介

= 国際シンポに役 ～クロツラヘラサギ大集合～ =

11月23(土)・24(日)の二日間、NPO法人野鳥やまぐち主催による「クロツラヘラサギ国際シンポジウム in きらら浜」が阿知須のホテルで開催されました。



クロツラヘラサギとの共生をめざして、韓国・北朝鮮・台湾・香港・日本のクロツラヘラサギ(Black-Faced Spoonbill⇒BFS)専門家たちが長年の観察や研究の経緯を発表、未来に向けて確実な保護と繁殖への道を検討する意義深い学術会議でした。

23日は18時から懇親会がありました。ステージに集合した葦の会会員の扮したBFSたちが歌とダンスを披露、懇親会参加者のカメラが一斉に注目しました。次に上演された紙芝居「クロツラヘラサギ クロちゃん山口へ」で、BFSが傷病しやすいのは、その嘴の形にあることを用具を使って分かりやすく説明した部分に「おーっ」と感嘆と納得の声が挙がりました。

なんといっても圧巻は、懇親会終盤に会員たちが始めた「高原列車は行く」の輪踊りに、当公園設立時にも大いに尽力頂いた山階鳥類研究所副所長の尾崎清明氏が加わって下さった時でした。クロツラヘラサギとの共生をめざした会場に笑顔の大きな輪ができました。



= 楽しかったよ！ふれあいまつり =

10月27日(日)、今年で10回目となる葦の会主催のふれあいまつりを開催しました。気持ちのよい秋晴れの下、たくさんの親子連れでにぎわいました。葦の会メンバーの紹介でベトナムの方3名の来場というサプライズもあり、今年も子どもたちの真剣なまなざしや弾ける笑顔に出会えたうれしい一日となりました。



巨大巣箱のらくがきコーナー



ドングリころころ



合唱タイム 幸せなら足ならそ♪



紙芝居を見る



おもちゃについて・・・



みんなで丸める

<編集後記> 公園の一大イベント「クロツラヘラサギ国際シンポジウム in きらら浜」に参加しました。アジア各国から来られた専門家の貴重なお話を聞き、クロツラヘラサギという希少な水鳥の保全に国を超えて協力して取り組むことのすばらしさ、意義深さを改めて思いました。今年最後の「よしきり」となりました。来年もよろしくお願いします。みなさま、よいお年を！(K)